

ふるさと

# ひょうご

東京兵庫県人会会報

令和4年2月号

Vol.142



## 特別企画

### 作家村上春樹さんの 世界に触れる

早稲田大学に文学館開設  
蔵書やレコードなど1万点収蔵

## ふるさとを語る

タレント

黒田有彩 さん





NIJIGEN NO MORI  
ニジゲンノモリ



# 淡路島西海岸 へ行こう!



青海波  
SEIKAIHA



GRAND CHARIOT  
北緯7度13分



はる さん さん  
陽・燦  
農家レストラン



HELLO KITTY  
SHOW BOX  
THEATER RESTAURANT



PASONA

大阪から1時間 神戸から30分で行ける淡路島西海岸リゾートへ遊びに行こう!

TM & © TOHO CO., LTD. © 2021 ARMOR PROJECT/BIRD STUDIO/SQUARE ENIX All Rights Reserved. © 岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・びえろ  
© 臼井儀人/双葉社・シンエイ・テレビ朝日・ADK © TEZUKA PRODUCTIONS. © 2021 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L627811



WEB SITE



- 03 **特別企画**  
作家村上春樹さんの世界に触れる 早稲田大学に文学館開設  
蔵書やレコードなど1万点収蔵
- 07 **ふるさとを語る**  
タレント 黒田 有彩 さん
- 09 **ふるさとの話題 兵庫県広報戦略課**
- 13 **ふるさと情報便**  
兵庫県内市町からの最新ニュース
- 19 **われらひょうご人**  
白城会東京支部支部長 長野 秀幸 さん
- 21 **第43回東京兵庫県人会 総会・交流会**  
『ひょうご五国 広がる五縁』
- 30 **俳句サロン「道草」通信**
- 31 **カムバックひょうご人**  
「五十年ぶりの帰還 生涯青春！記者魂！ふるさと愛はボチボチと…」  
地域アドバイザー（仮称） 堂元 光 さん（宍粟市）
- 35 **兵庫お酒の会**  
兵庫お酒の会第3回企画「朝来市の魅力＆あの銘酒を味わうオンラインツアー」
- 37 **のののの会**  
中堅・若手会員の会「『明石まるごと体験オンラインツアー』を開催しました！」
- 39 **県人会だより**  
同郷会・同窓会からのたより
- 41 **会員サロン**  
「あたりまえ」ではなかった話  
真法律会計事務所 パートナー弁護士 三谷 和久 さん（神戸市北区出身）
- 43 **新規会員のご紹介**
- 44 **尚志館だより**
- 45 **見つけた！出会った！ふるさとひょうご**  
アンテナショップ通信
- 47 **読者サロン**  
U5H（兵庫五国連邦）プロジェクト プレゼントクイズ

●.....●  
(表紙) フィギュアスケート全日本選手権で優勝！

神戸市出身のフィギュアスケートの坂本花織選手が、令和3年12月に開催された全日本選手権で優勝し、北京五輪日本代表に内定されました。平昌五輪に続く二大会連続の出場となります。



# 作家村上春樹さんの 世界に触れる

早稲田大学に文学館開設  
蔵書やレコードなど1万点収蔵

「物語を拓こう、心を語ろう」をテーマに昨年10月、早稲田大学（東京都新宿区西早稲田1）に新たなスポットが開設された。神戸・阪神間ゆかりの作家で、毎年のようにノーベル文学賞候補として名前が挙がる村上春樹さんが寄贈、寄託した資料を納めた国際文学館（村上春樹ライブラリー）だ。本人の蔵書や翻訳された著作、レコードなど約1万点が収蔵され、一部は展示されている。作家による朗読イベントや対談も催され、ファンでなくても音楽を聴き、コーヒーを飲みながらくつろいで読書や人との語りを楽しむことができる。村上ワールドに触れられる新スポットに出掛けてみよう。

（神戸新聞東京支社編集部長 小西博美）

アーチ状のつくりが特徴的な階段本棚には、村上春樹さんに関連する本が並ぶ。



## 村上ワールドを体感 新しい文化の発信拠点

村上春樹ライブラリーが創設されるきっかけとなったのは、村上さんから母校である早稲田大学に本や資料、レコードを寄贈したいという話があったからだ。やはり同大学出身で、ユニクロを展開するファーストリテイリングの柳井正会長兼社長が費用を寄付することになり、新国立競技場などの建築に携わった建築家の隈研吾さんが設計した。校舎を改装した施設は地上5階、地下1階で、外側には波のようなトンネルが張り巡らされている。村上さんが在学中によく通ったという演劇博物館



階段本棚で本を手取る入館者

に隣接している。

館長で同大学文学学術院の十重田裕一教授（57）によると、村上さんは「たいまつを渡すように文学の火を伝えていくような、緩やかな連携を望んでいる」といい、風通しのよい文学交流の場を目指すことになった。さらに、資料を並べるだけではなく、現在進行形で楽しんでもらえるダイナミックな展示や構成、イベントを考えているという。

昨年10月の開館を記念して、開かれたのは「Authors Alive!」作家に会おう」と題する朗読会。村上さんと作家小川洋子さんの対談や、村上さんが音楽について語る会などを催した。

## 文学の世界へ誘うアーチ 階段本棚で手に取る名作

では、施設の見どころを紹介していこう。1階から入るとまず、柔らかな光に照らされて目に付くのがアーチ状の階段本棚だ。ライブラリーの象徴となる場所で、木とスチールを組み合わせて作られた本棚は真新しく、独特のぬくもりが感じられる。トンネルをくぐると現実の世界から、村上文学の世界へ導かれるようだ。開館時には1500冊の蔵書が並べられており、随時入れ替わる。下に向かって右側上部が「現在から未来に繋ぎたい世界文学作品」、左側が「村上作品とその結び目」をテーマにしている。興味を持って手に取った本がまた、新たな関心を引き起こす、といったこともあるだろう。ここにある本は、自由に手に取って読むことができる。階段は左右で段差が違っているので踏み外さないようにご注意ください。片側はそこに座って本を読めるスペースになっている。

階段本棚横のギャラリーラウンジには、兵庫県西宮市、芦屋市で育った村上さんが、阪神間を舞台



デビュー作から最近の作品までが揃うギャラリーラウンジ

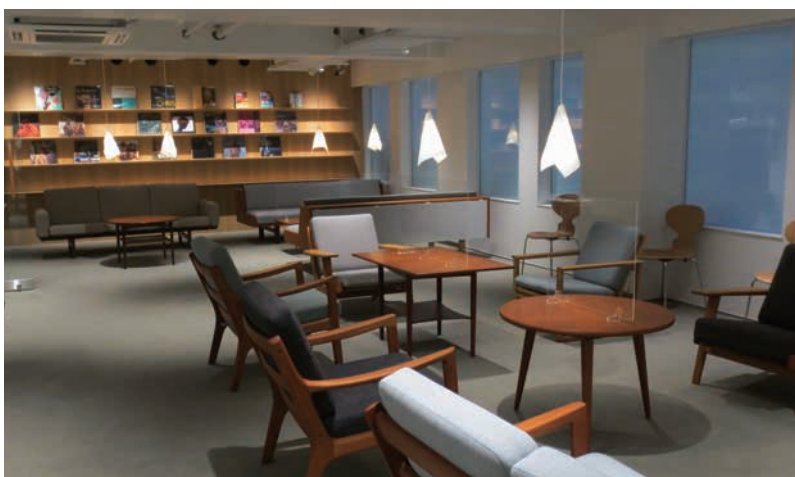
に展開したデビュー作「風の歌を聴け」から2021年までの作品が壁いっぱいになり並ぶ。本人から寄贈されたもので多くが初版本という。通常の文学館などとは違い、大ベストセラーとなった「ノルウェイの森」や「羊をめぐる冒険」なども手に取れるのがうれしい。

反対側の壁には、世界各国で訳され、出版された村上さんの本が置かれている。47カ国語のうち20カ国語の装丁がそろっており、ギリシャ語やベトナム語の作品もある。

さらに奥へ進むと、村上さんの著作年譜がある。訪れた人は、著者の作品と自らの体験を重ね合わせてた



ロビーにも本があふれており、いつでも読める



ピーター・キャットでかかっていた音楽などが聴けるオーディオルーム

どることができる。また、ファンの中には、著者の長編、短編と翻訳本の出版時期から、村上さんの仕事の流れやリズムを感じ取る人もいるという。

ギャラリールラウンジには、周囲を囲まれ、異世界にいるような感覚で、読書を楽しめる「コクーンチェア」や、村上さんがかつて運営していたジャズ喫茶「ピーター・キャット」で使われ、寄贈された椅子、天板の広い「語らいテーブル」などユニー

### 音を楽しむ空間も プロがオーディオ設定

心地よい音楽が流れる、ゆったりとした空間に、座り心地のよいソ

クな家具が設置されている。小説「羊をめぐる冒険」で村上さんが描いた羊男の絵や、箱形のシェルフを多方向に積み上げた図書返却棚もある。

階段本棚を降りて地下1階へ行く  
と、作家の仕事を再現した「村上さんの書斎」がある。取材と撮影のため、特別に入らせてもらった。横長の机には薄型のパソコンとプリンター、アームライトが置かれ、椅子がしつらえてあり、著者が仕事をす  
る様子が想像できる。短くなった鉛筆や、マープル模様のペーパーウェイトとおぼしきものも。鉛筆は村上さんが実際に使っていたものらしい。机の後ろに置かれたプレーヤー

### 作家の書斎を再現 棚やプレーヤーまでこだわり

に、至福の時間だ。

深く腰掛けて好きな本を読む。まさに、至福の時間だ。

ファヤ木のテーブル。ここは、村上さんの自室でかかっている音楽など、関わりの深いサウンドを伝えるオーディオルームだ。

アドバイザーで、オーディオ評論家の小野寺弘滋氏が、部屋のシステム選定やセッティングを担った。ジャズ喫茶、ピーター・キャットでかけていたレコードなどを使っているという。音楽を聴きながら、北欧のヴィンテージ家具であるソファに

やアンプ、椅子も村上さんの書斎にあるものと同じ製品だそう。机の前には、ソファなど応接セットが置かれている。親しい人との語りや休憩の際に使われるのだろうか。ソファやじゅうたんは、実際の書斎と似たようなものを探した。両



作家の仕事を再現した「村上さんの書斎」



作家の書斎を示すサイン





村上さんのグランドピアノが存在感を放つラウンジ

壁に備えられたレコード棚も、村上さんが実際に使っているものと同じサイズといい、順次、寄託・寄贈されるレコードが並ぶという。

現段階では、部屋の中には入れないが、ラウンジから室内を見学できる。

書齋近くには、学生が運営する喫茶店「オレンジキヤット（橙子猫）」がある。村上さんが夫妻で「ピーター・キヤット」を開業したのは、大学在学中だった。その名の由来となった「ピーター」という種類だったことから、村上



学生たちが運営するカフェ「オレンジキヤット」

さんが命名した。半年かけて準備してきたといい、ハンドドリップコーヒーや季節野菜のドライカレー、ドーナツなどを提供する。

十重田教授は「コーヒーを飲んで、音楽を聴いて、今までの文学館とは違った多様なくつろぎ方ができる。はるばる来てくれる人も多い」と満足そうに話す。写真共有アプリのインスタグラムには昨年12月で千件を超える投稿があったという。

地下のラウンジでは、「ピーター・キヤット」で使われていた村上さんのグランドピアノが存在感を發揮している。木々に囲まれた屋外の「ポケットパーク」にも出られるようになってい

### 「海辺のカフカ」舞台装置も村上文学「神戸の影響か」

また、村上さんの長編「海辺のカフカ」は蜷川幸雄氏の演出で、各国で舞台化され、高い評価を得た。その際に使われた、土星を思わせるネオンサインの舞台装置が目を引く。

このほか、最上階の2階には、幅広い内容の企画展を開く展示室や、音響設備が整ったラボなどがある。

ここまで、ライブラリーの見どころを紹介してきた。ファンや一般読書にとって魅力的な施設だが、早稲田大学はほかにも村上さんのスク



舞台「海辺のカフカ」で使われたネオンサイン

ラップブックや研究図書などを所有しており、村上文学をはじめとする国際文学、翻訳文学の研究拠点を目指す。

最後に、日本文学を専門とする十重田教授に、村上文学への思いを語ってもらった。「ヨーロッパに学ぶ人が多い中で、村上さんは日本文学に関心を持った。文体も日本ではなく、世界の文脈の中で考えておられ、音楽はジャズが好き。最初から世界を意識していたのは、神戸という開放的な土地柄で育った影響かもしれないですね」と話していた。

入館は無料だが、ウェブサイトでからの事前予約が必要になる。



波のようなトンネルが張り巡らされたギャラリー全景